

「対人関係能力」に必要なものとは

人びとは、あなたがどれだけ気遣ってくれているかを知るまでは、あなたの知識がどれだけ豊富であろうと意に介しない。
ジョン・C・マクスウェル

今月は、昨年7月、本年2月に本ブログで取り上げたジョン・C・マクスウェル氏の言葉(ダイヤモンド社『人の上に立つ』ために大切なこと)を三度取り上げたいと思います。マクスウェル氏は、リーダーシップの世界的な権威ですが、リーダーシップについては、前にもお話したように、組織で働く人にとって必要な要素であり、中でも、「対人関係能力」は、ある意味で最も重要なものかもしれません。

同書の中で、同氏は、「対人関係能力」のために、必要な「資質」として、「相手方の感じ方と考え方を理解する能力」と述べており、その上で「人間には、六つの共通点があることを認識」する必要があるとしています。

一つめは、「人間というものは、自分が特別であると感じたがっている」ということです。「自分が特別である」ということは、他者から認められてこそ、より強く認識されるものであり、その意味で、こうした「承認欲求」は、多少なりとも誰にでもあるものと思われ、標題の言葉の背景にあるものは、まさにこのことではないかと考えられます。

二つめは、「人間というものは、より良い明日を待ち望んでいる」ということです。「一陽来復(いちようらいふく)」という言葉があります。つらく厳しい日があっても、いつかは穏やかな日がまたやってくるというような意味ですが、こうした言葉などにより、そっと励ますということは、良好な人間関係にとってとても大切な点だと思います。

三つめは、「人間というものは、方向性を求めている」ということです。変化の激しい現代社会において、どんな人でも明日への不安や様々な迷いなどを持つのは当然のことで、多くの人が、自分なりの何らかの方向性を希求しているものと思われます。その際、相手に寄り添い適切な助言等ができれば、大きな信頼を得られると考えられます。

四つめは、「人間というものは、自己中心的である」ということです。社会的動物である人間は、「社会」という一定の枠組の中に存在しているわけですが、生物としてのヒトは、様々な本能のようなものを失っていないわけで、「自己中心的」であることが、ある意味その本質なのかもしれません。いずれにしろ、相手方が「何を」、「なぜ」求めているかをきちんと把握することは、人間関係を構築するために大切なことと思われます。

五つめは、「人間というものは落ち込みやすい」ということです。サイコパスやソシオパスとされるような人を除き、一見タフに見える人でも、内面ではひどく落ち込んでいることもあり、そういう時に話を聞いてもらえるだけでも救われることがあるものです。

六つめは、「人間というものは、成功を欲している」ということです。その成功のために影になり日向になり手助けをしてあげることや、その人の成功を心より喜んであげられることが、より良い人間関係につながるものと思われます。

最後に、愚見を述べさせてもらえば、これらのことを、「対人関係のテクニック」のように捉えていただきたくないということです。以上の六つの指摘は、人間の特徴について、正鵠を射るものだと思いますが、冒頭の言葉にあるように、相手方と真摯に向き合ってこそ、本当の意味での「信頼関係」が構築できるのではないかと思います。

令和7年(2025年)11月



一般財団法人 かながわ水・エネルギーサービス
理 事 長 松 井 聡 明